

2023年4月17日

報道関係社各位

慶應義塾大学

佐賀県と慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科が 持続可能な地域社会実現に向けた社会実証プロジェクトを開始

～佐賀県内外の企業・住民・行政を繋ぎ、分野横断的な課題解決を目的とした実証事業を面で展開～

佐賀県（知事：山口祥義）と慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（横浜市港北区、研究科委員長：稲蔭正彦 以下、KMD）は持続可能な地域社会実現に向けたイノベーション創出を目指し、世界的な環境対応が求められるなかで、地域や企業の新しいモデルを生み出すべく、「SAGA サステナブル・イノベーション事業」を開始しました。本事業では持続可能な地域社会実現に向けて、分野横断的な国の政策に対応した先進的な課題解決への取り組みを県内外の企業・住民・行政と連携した社会実証プロジェクトを通じて推進していきます。

環境社会に対応した住民行動変容における社会実証を目的とした 3つのプロジェクトを推進

  <ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内の住民・大学・企業、自治体等との連携 ✓ 県外の産学連携による先端技術、政策連携 		
<p>プロジェクト1</p> <p>住民の屋内活動における 社会行動変容に向けた実証</p>	<p>プロジェクト2</p> <p>住民の消費行動における 社会行動変容に向けた実証</p>	<p>プロジェクト3</p> <p>エシカル商品開発における 新産業創出に向けた実証</p>
<p>住民</p>  <p>再エネ利用や節電 家庭における脱炭素の具体法とは？</p>	<p>住民</p>  <p>エシカル消費 社会・人・環境に 優しい暮らしとは？</p>	<p>産業</p>  <p>GX対応・CO2削減 地場産業の差別化 と新産業の創出</p>

■ 背景：

佐賀県とKMDの連携のもと、本年度の実証事業では県内外の企業・住民・行政と連携することで、環境・社会・人にやさしい“エシカル”な県ブランドの実現を目指し、政府が掲げている2050年のカーボンニュートラル実現、ならびに2030年の排出削減目標に向けた地域住民・企業の参画意識醸成&エシカル行動変容につなげていきます。社会基盤を担うサービスを提供している企業群との実証事業を佐賀県発で全国に発信し、立地を活かした安定した再エネ共有の実現やCO2クレジット創出も並行で進めることで、本年の政府骨太方針となっているグリーントランスフォーメーション（GX）に対応した新たな企業誘致メリットにもつなげ、住民・企業にとっても誇れる県ブランドを目指します。

今回のプロジェクトを推進するとともに、地域の持続可能な発展を目指す拠点として、産地の将来を見据えた長いスパンでの事業展開およびKMDの活動の核である先端技術や社会の動向を見据えながらイノベーションを創造するプロジェクトを展開し、さらなる地場産業の活性化を目指します。

■ 「エシカル（社会、人、地球にやさしい）」をテーマにした各プロジェクトの今後の取り組みについて

地場産業・県民に向けた環境変化への具体的なアクションを域内外企業と連携した3つのプロジェクトを通じて、社会行動変容の社会実証に向けた取り組みを推進します。

1. 住民の屋内活動における社会行動変容に向けた実証

大和リビング株式会社と連携し、佐賀県下の管理物件における再エネ供給モデル（太陽光発電＋蓄電ソリューション）を構築することで、安定的に品質の良い再生可能エネルギーを供給するとともに温室効果ガスの排出削減を推進します。さらに、住居IoTを活用した環境にやさしいエシカルライフの提供を通じた住居者の行動変容を促すことで、住居民・地場産業・域外企業連携を通じた持続可能な社会の実現を目指します。

2. 住民の消費行動における社会行動変容に向けた実証

KDDI株式会社と連携し、3月に先行実施した「エシカル消費」に対する認知・意識調査アンケート結果（リアルとオンラインあわせて694サンプル）より、以下2つの示唆が得られました。

- ・ 日常的に実施しているエシカル行動を認知することで、エシカル行動への興味が高くなる傾向
- ・ 趣味嗜好や生活様式によって、エシカル行動への興味が差異

今後はエシカルマーケットの掘り起こしに向けて、「認知を通じた行動変容の促進」と「嗜好・生活様式にあわせたアプローチの検討」をするとともに、県内企業と連携しながらエシカル行動への社会行動変容の可能性を検証していきます。

3. エシカル商品開発における新産業創出に向けた実証

日本郵便株式会社と連携し、佐賀県下の地場商品の新しい産業創出をテーマに、CO2の削減や配送効率の向上、フードロス対策への貢献に加え、生産者や購入するお客さまにもメリットのある「エシカルなふるさと小包」をご提供します。また、株式会社ひらまつと連携し、九州の食材をベースに料理の魅力を伝え続けているレストラン Kubotsu の窪津朋生（くぼつともき）料理長監修のもと、新しい食べ方・素材の魅力を消費者へ伝えることで、付加価値の高い循環型サービスの創出を目指します。今回の実証では、佐賀県産食材の新しい楽しみ方のレシピ提案とともに、本日4月17日より、豊島区及び練馬区内の郵便局96局において生産・流通におけるカーボンゼロを実現したエシカルなふるさと小包の試験販売を行います。

地場食材に光を当て、現代食文化をふまえた商品提案の検討へ



エシカル呼子朝市ひもの詰め合わせ



子ども食べられるトンナートソース



お手軽アクアパッツァ

■ ご参考（2月9日発表資料）：佐賀県令和5年度当初予算「SAGA サステナブル・イノベーション事業」

佐賀県の令和5年度当初予算の新規事業として「SAGA サステナブル・イノベーション事業」を推進する体制が構築されました。こちらをふまえて、KMDでは佐賀県下での社会行動変容実証の検証推進・地域活性化に向けた域内外との連携事業と活動を進めていきます。なお、今後も引き続きご支援いただける企業団体を募集し、地域住民・地場産業との持続可能な発展を目指します。

令和5年度当初予算 主要事項参考資料

新規 SAGAサステナブル・イノベーション事業

企画チーム 8,831千円

目的・意義
持続可能な社会を実現するため、地域や企業の新しいモデルを生み出すチャレンジに参画・支援し、そのモデルを県内に波及させる。

事業内容

<p>取組1 企業、大学と連携し、産バツリを適用したグリーン電力供給等の実証実験</p> <p>先活用再生可能エネルギーの活用</p> <p>グリーン電力の供給体制構築</p>	<p>取組2 「持続可能な地域づくり」モデルの調査分析、事業支援</p> <p>「持続可能な地域づくり」モデルの調査 持続可能な地域づくり + 未来に向けた地域づくり</p>
---	--

（例）地場産品を活用した小水力発電
（例）売電収益を活用し、地域の活性化を促進する事業にチャレンジ

具体的な取組を支援しながら、調査・分析を行い、モデル構築のためのナレッジを蓄積し、県内への展開を目指す

DaiwaLiving K&D MEDIA DESIGN

事業期間 令和5年度～（2023年度～）

■ 佐賀県

知事 : 山口 祥義
住所 : 佐賀市城内1丁目1-59
URL : <https://www.pref.saga.lg.jp/>

■ 大和リビング株式会社

代表取締役社長 : 匠瑛 繁夫
住所 : 東京都新宿区西新宿6丁目11番3号
URL : <https://www.daiwaliving.co.jp/>

■ KDDI 株式会社

代表取締役社長 : 高橋 誠
住所 : 東京都千代田区飯田橋3丁目10番10号
URL : <https://www.kddi.com/>

■ 日本郵便株式会社

代表取締役社長 : 衣川 和秀
住所 : 東京都千代田区大手町二丁目3番1号
URL : <https://www.post.japanpost.jp/index.html>

■ 株式会社ひらまつ

代表取締役社長兼 CEO : 遠藤 久
住所 : 東京都渋谷区恵比寿 4-17-3
URL : <https://www.hiramatsu.co.jp/>

■ SAGA COLLECTIVE 協同組合

理事長 : 樺島 雄大
住所 : 佐賀県佐賀市諸富町山領 266 番地 1
URL : <https://saga-collective.com/>

■ 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

メディアデザイン研究科 (KMD) は、イノベーションを自ら生み出し社会に向けて価値を創出する能力を持つ「メディア・イノベータ」の育成をミッションとしています。メディア・イノベータは分野や国境の枠を超えてグローバルに活動し、ポストパンデミックにおける創造社会を先導していきます。

研究科委員長 : 稲蔭 正彦 教授
住所 : 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
URL : <https://www.kmd.keio.ac.jp/>

□ 地域みらいプロジェクト

「持続可能な地域活性」の実現をミッションとし、専門家視点ではなく地域の実行者目線で最新技術や社会情勢を踏まえた解決案を実情に合わせて企画・実行します。自治体や地場産業、地域住民の方と一緒に活動しながら産官学のオープンイノベーション体制を構築し、農林水産や地場産業の活性化プロジェクトを実行しています。

担当教官 : 岸 博幸 教授
プロジェクトリーダー : 大江 貴志 研究員
事務局 : オークツ株式会社 (大学発ソーシャルベンチャー)
URL : <https://chiki-mirai.localinfo.jp/>

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部等に送信しております。

【本調査内容に関するお問い合わせ先】

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 研究員 岸浪 聖

Email : sei.kishinami@kmd.keio.ac.jp

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（澤野）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

Email : m-pr@adst.keio.ac.jp URL : <https://www.keio.ac.jp/>